

健康ワンポイントアドバイス



発行：十日町市中魚沼郡医師会

発行日：平成28年7・8月発行

第169号

危険ドラッグについて

池田医院 院長 池田 透 先生

最近薬物依存症に関係する事件が多く報道されています。毎年6月26日は国際麻薬乱用撲滅デーです。7月19日まで「ダメ・ゼッタイ」キャンペーンが行われます。麻薬は、医師の処方によって医療に使う以外には、使うことを禁止されています。覚せい剤は病気の治療にも使うことは出来ません(米国25州では医師の管理のもとでのみ覚せい剤の医療使用は可能)。

近年「危険ドラッグ」が世の中で問題になっています。麻薬や覚せい剤に勝るとも劣らない有害性をもつにもかかわらず、法の網をくぐり抜けて売られています。危険ドラッグは、多幸感、快感などを高める目的で販売されています。「お香」、「アロマ」、「バスソルト」などと称して販売されるため、恰も身体に影響がなく安全であるかのように誤解されています。この製品は凶悪な顔つきをしていないので、決して外見に騙されないようにして下さい。

以前合法ドラッグ・脱法ハーブなどと呼ばれていた薬物を、現在は「危険ドラッグ」と呼んでいます。麻薬や覚せい剤は、法律でその成分を指定して規制されています。その成分の化学構造の一部だけを変えた薬物は、法律で取り締まられていないとして売られていたため、脱法ドラッグ、違法ドラッグと呼ばれていました。厚労省と警察庁は、現状を鑑み「危険ドラッグ」と呼ぶことにしました。

新たな危険ドラッグがあまりにも次々と現れたために、法規制が後手後手の状態です。麻薬や覚せい剤の依存性の強さは有名ですが、私たちの身近にあるタバコ、アルコールも続けると、依存と分かっているも止められない状態になることがあります。いま問題になっている危険ドラッグの中には、麻薬や覚せい剤以上の依存性の強いものがあります。依存は、その薬物の乱用を繰り返すことによって作られます。

麻薬・覚せい剤・危険ドラッグなどが脳に与える影響については以下の3つに分類されます。

- ① 脳を刺激し興奮させる中枢神経刺激薬 [覚せい剤、コカイン、MDMA など]
- ② 脳の働きを抑制する中枢神経抑制薬 [あへん、睡眠薬、抗不安薬、有機溶剤など]
- ③ 感覚を変化させる幻覚薬 [大麻、LSD など]

危険ドラッグは、その成分によっては、これらのどの作用も持ち得るのです。

【危険ドラッグに関する注意点】

危険ドラッグに含まれる成分については明らかではありません。結局、危険ドラッグを使用すると何が起きても不思議は無いというのが特徴です。しかも、麻薬や覚せい剤に勝るとも劣らない依存症と毒性をもつものが少なくありません。1回の使用で死に至るものもあるのです。危険ドラッグは毒物です。得体の知れないものは、決して体に入れないという姿勢が大切です。